

日本語指導教員の役割と求められる資質・能力

—「つなぐ」役割と「夢・希望」を実現させる意志・力—

令和3年4月6日(火)

群馬県庁251会議室

JLT研修

伊勢崎市立境東小学校 教諭 田口 健治

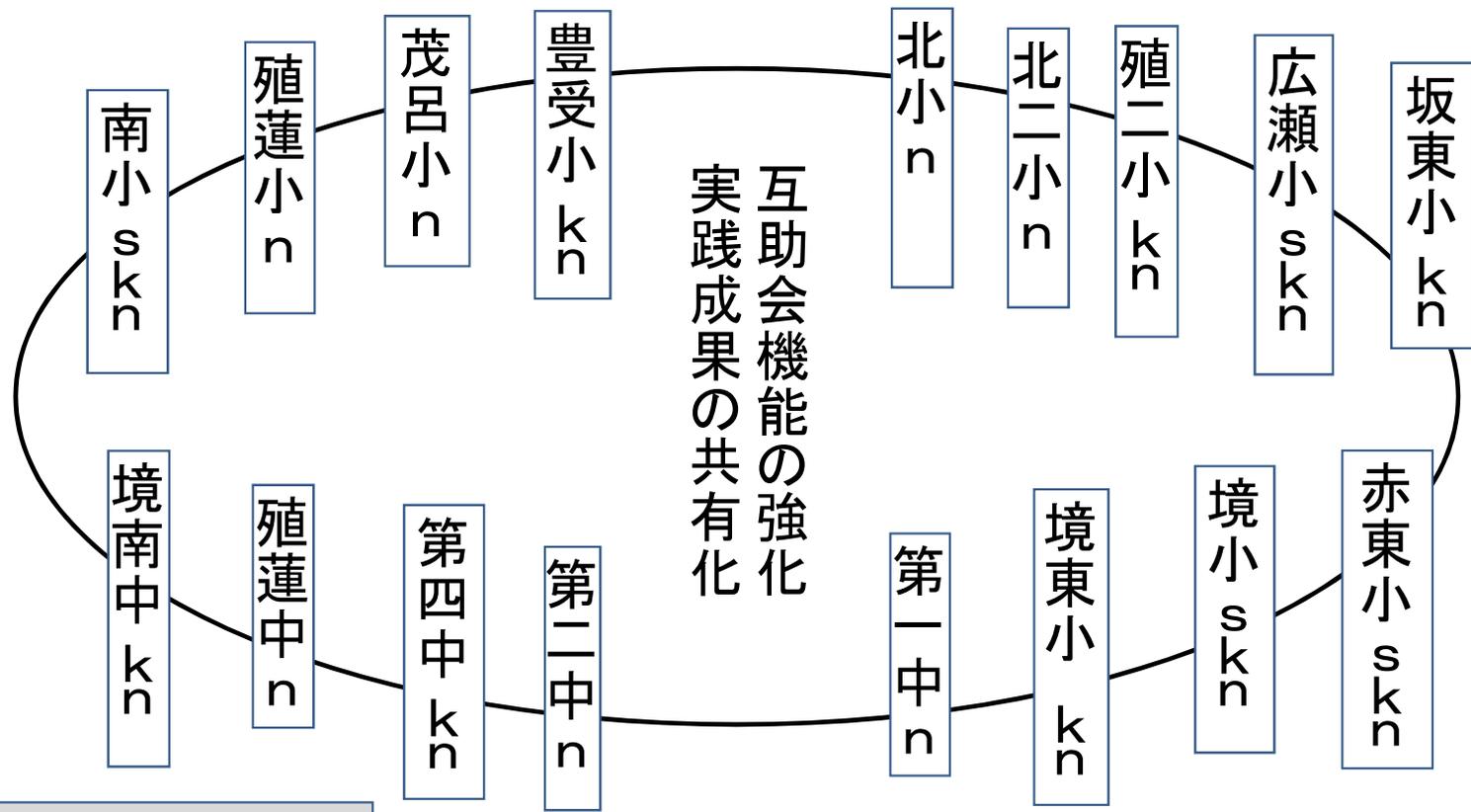
伊勢崎市立境南中学校 教諭 佐藤 康

TJC(Traveling type Japanese guidance Coordinator)

伊勢崎市の特徴

- 総人口 213,267人
- 外国人住民数 13,246人 6% (2020.9.30)
- 外国籍児童生徒数 1,141人 28国籍・21言語
- 要日本語指導数 461人 40% (2020.5.1)
- 「日本語教室」設置 12/23校（小学校）、5/11校（中学校）
- ①学事係→②初期対応校（5日間・支援助手）4小学校→
③拠点校（通学区緩和・支援助手）8小学校・2中学校→
④日本語教室設置校 12小学校・5中学校（県費加配教員）
- 外国籍児童生徒学校生活支援助手(母語話者) 28名 (2021.4.1)
スペイン・ポルトガル・ベトナム・タガログ・英語・ドイツ語

【組織図】 初期対応校:s、拠点校:k、日本語教室:n



課題別自主研究
【日本語教育研究班】

- ・日本語教室担当教員研修会
- ・教育研究所「日本語指導研修講座」

日本語教育研究班の活動内容

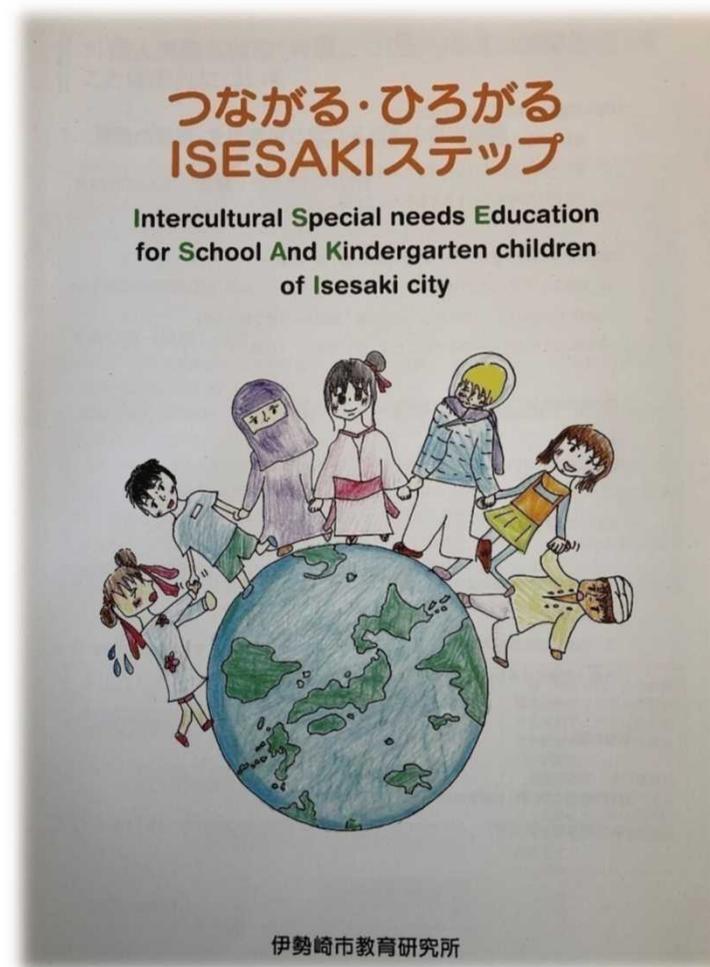
- 組織的・系統的な日本語指導の改善
 - 日本語教室と在籍学級をつなぐ授業づくりを通して
 - 1 系統的な指導力の向上
 - 「伊勢崎市 日本語ステップ」、「個別の指導計画」、「はじめの8歩」
 - 2 組織的な運営力の向上
 - 現状、課題、解決策の共有（日本語教室・在籍学級・学校・市）
 - 3 市内外への発信力の向上
 - 班だより、授業公開、研修会（市・県・大学・学会・フォーラム）

「ひろがることば・夢・希望」の開発

・日本語指導では、

言葉の学習だけではなく、

子供の夢や希望につなぐことが大切



・「伊勢崎市 日本語ステップ」

ステップ3	日本語でやり取りを始める
	友達がよく使っている表現を真似して、積極的に使おうとする。 ○「静かにして!」「はやく、はやく」
	自分なりの日本語やジェスチャーなどを使って、積極的に質問したり話したりしようとする場面が見られる。
ステップ2	1対1で、相手に助けられながら、簡単なやり取りができるようになる。 ● 本人が言いたいであろう言葉を補ってあげる ○「バスケの練習で・・・」(けが?)「そう、こっちの手」
	身近な場面で日常的に使われる語や表現を理解し、使い始める
	よく聞く挨拶や簡単な指示を聞いて理解し、動作や言葉で応じる。
ステップ2	自分が知っている言葉や表現を使って、友達や周りの大人に働きかけようとする。 ○「消しゴム、貸して。」
	身近な話題について話しかけられると、簡単な言葉で答えることができる。
	○「おもしろい!」「あつい」

・「個別の指導計画」

様式1 (児童生徒に関する記録)

個別の指導計画 (記載例)

作成年月日 平成〇年〇月〇日
 作成者 在籍学級担任名・日本語教室担当者名

フリガナ 児童生徒氏名 (通称)	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇		性別	男	国籍	ブラジル			
			出生地		ブラジル				
			生年月日		平成〇年〇月〇日				
フリガナ 保護者氏名 (通称)	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇		続柄	父					
入国年月日	平成〇年〇月〇日		学校受入年月日	平成〇年4月7日					
家族構成	続柄	名前	国籍	日本語理解の状況・備考					
	父	〇〇 〇〇	ブラジル	日本語はほとんど分からない。					
	母	〇〇 〇〇	ブラジル	日本語はほとんど分からない。					
	叔父	〇〇 〇〇	ブラジル	日常会話はできる。ひらがなを読み書きできる。					
	叔母	〇〇 〇〇	ブラジル	日本語はほとんど分からない。					
家庭内使用言語 とその状況	ポルトガル語 叔父が児童に対して日本語で話しかけることがある。								
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3

様式2 (指導に関する記録)

伊勢崎市立〇〇小学校 1年〇組 〇〇〇〇さんの指導計画 (記載例) (〇〇)年度 No.(〇)

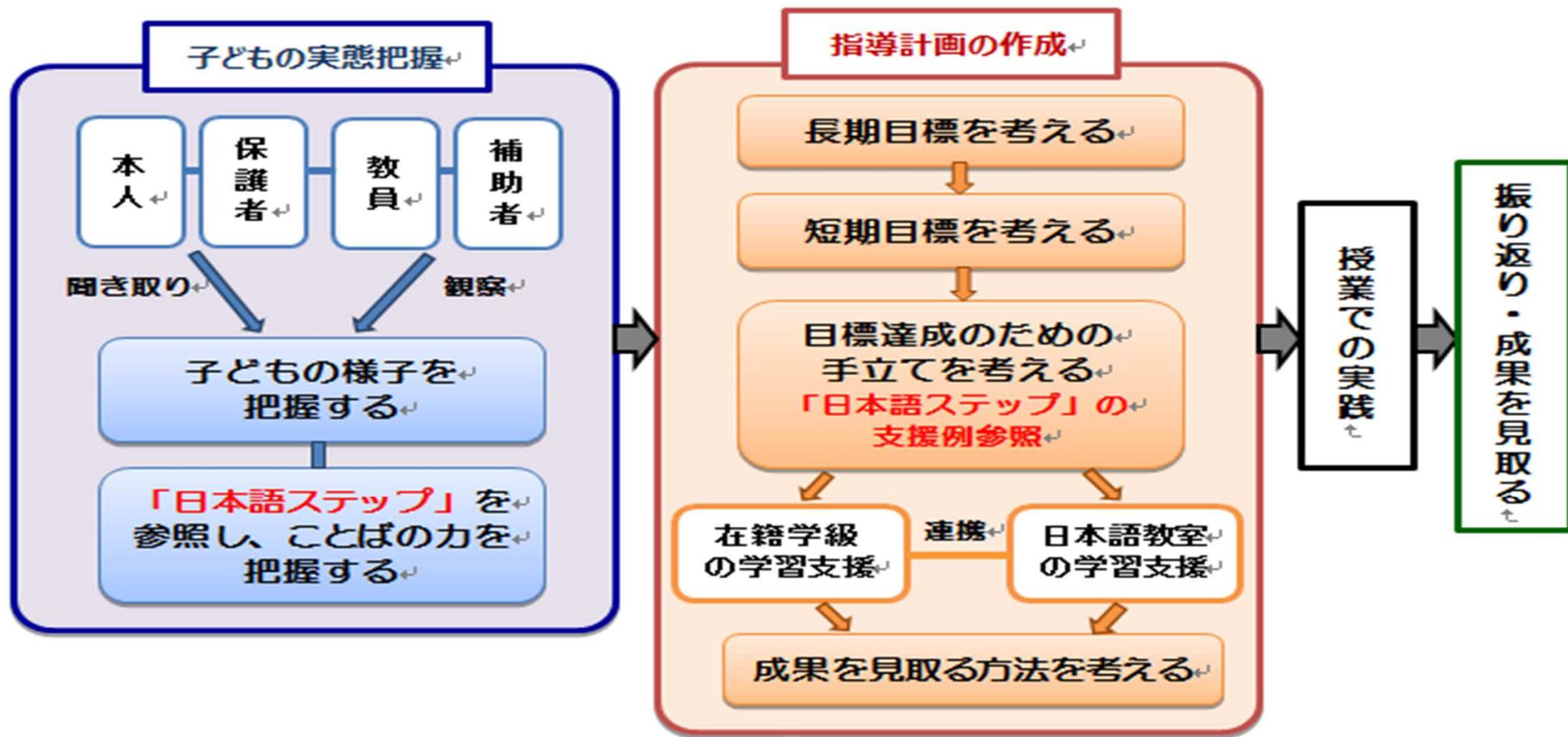
作成年月日 H29/3/10 作成者 在籍学級担任名・日本語教室担当者名

児童生徒の実態				
学び す	① 好きなこと・得意なこと・よさ 歌ったり踊ったりするなど身体で表現することを好む。 仲間の前で名前を挙げてほめられることをとても喜び、活動に前向きに取り組もうとする。			
	② 学校生活 (学級・日本語教室・休み時間など) 日本語教室での学習を楽しみにしている。身に付いた語彙はまだわずかで、教師の説明や指示を聞き取れないことや内容を理解できないことがある。周りの様子を見て、仲間をまねて動いている。学習内容がわからないときは、教師の助けを求めたり仲間のものを書き写したりしている。日本語で話そうとする意欲は旺盛で、話したいことがあると周囲の状況に関係なく話し始める。学習時の姿勢が崩れやすい。			
	③ 家庭・地域 (学習環境・期待できる支援など) 同居の叔父は日常会話程度の日本語が分かるので、ひらがなの練習、音読等の宿題への協力が少し期待できる。			
ちが い	① 日本語の力	読み書きできる文字は、自分の名前にあるひらがなとカタカナにとどまっている。 数の学習では、1〜5および7について、数字と読み方、数が一致している。		
	日本語ステップ	日常会話 3→4	聞く/聴く 3→4 話す 3→4 読む 1→1 書く 2→2	
	(ポルトガル)語の力	生活上の聞くこと・話すことは、ほぼできている。		
② 学習活動への参加 (在籍学級での参加状況・関心・意欲など) 国語の学習では、物語の場面をとらえようと、登場人物になって動作化したり、せりふを言ったりするなど、進んで表現できる。				
指導計画				
長期目標	1. 文字(ひらがな、カタカナ、漢字)の読み書きや、ひらがなの文をゆっくり読むことができる。 2. 10以下のたし算、繰り下がりのないひき算ができる。			
短期目標 (期間: H29.1-3)	具体的な指導の手立て	成果を見取る方法	成果・変容	
生活・交流	1. 正しい姿勢で学習できる。 2. 思いや考えを挙手してから発表できる。 3. 教師の話や仲間の発言を聞くことができる。	1. がんばる姿やできたことをその場で認め、名前を板書するなどして賞賛する。 2. 児童の知っている語彙を用いて簡潔に話す。 3. 挙手→指名→発言の手順で発言させたり、仲間の発言を聞いたりさせ、できたことを積極的に賞賛する。	・観察(姿勢、挙手による発言、わかったことに返事で応える) ・目標の実現状況の見取り	・授業の開始や終了のあいさつを進んで行おうとする。 ・仲間の発言に「いいです。」と反応できるようになってきた。
	1. ひらがなの半分程度を	1. 文字を書く練習は、知っている語	・練習プリントへの取	・ひらがなやカタカ

その子のよさを積極的に生かしましょう!

目標の実現状況の見取り

「日本語ステップ」と「個別の指導計画」



すべての生徒が夢に向かって挑戦できる日本語指導を目指して —学び方・居場所・母文化を「つなぐ」工夫—

○外国語母語32/342名、日本語指導16名(5言語・6国籍)

1. 学び方を「つなぐ」

- ・系統的に日本語能力や学力の向上を図るため、個に応じて、日本語の基礎や教科の補充について指導を工夫する。

2. 居場所を「つなぐ」

- ・組織的にのよりよい生活適応を図るため、日本語教室と在籍学級・学校、家庭・地域と連携する指導を工夫する。

3. 母文化を「つなぐ」

- ・個性を認め合い自己肯定感を高め合えるようにするため、母語・母文化を尊重し合うよう指導を工夫する。

学び方・居場所・母文化を「つなぐ」1

単元名 「教えよう、ふるさとを」 (7時間) 2018

班ごとに母語・母文化を調べ、日本語で伝え合う。

日本語 2～5・母文化 5 アフガニスタン・バングラデシュ・パキスタン・フィリピン・ブラジル

1. 課題把握 (導入) 日本語と国語科の全体目標・個別目標を把握

全体目標：基本文型＋根拠や構成、個別目標：個に応じ主体的に

2. 課題追究① (精読：知識及び技能) ……情報取出・解釈

課題追究② (多読：思考・判断・表現) ……熟考・評価

3. まとめ (振り返る・つなぐ) ……交流 (日本語母語者と共に)

1. 課題把握（主体的取組へ導入）

【全体目標】基本文型を使い（日本語）→根拠や構成を考える（国語科）、【個別目標】生徒・日本語・学年（在日年数）

①パシュトゥ語（アフガニスタン）を母語とする班

A・段階3・2年(2) 内容をまとめ要点を伝えることができる。根拠を明確にして論理的に伝えることができる。

B・段階3・1年(2) 内容をまとめ丁寧に伝えることができる。根拠を明確にして伝えることができる。

②ベンガル語（バングラデシュ）を母語とする班

C・段階3・2年(8) 文型を使い内容をまとめ伝えることができる。根拠を明確にして論理的に伝えることができる。

D・段階4・1年(3) 全体の構成を考えることができる。根拠を明確にして構成を考え伝えることができる。

③ウルドゥ語（パキスタン）を母語とする班

E・段階5・3年(9) 構成を効果的に伝えることができる。根拠を明確にして説得力をもち伝えることができる。

F・段階5・1年(9) 構成を効果的に考え伝えることができる。根拠を明確にして構成を考え伝えることができる。

G・段階4・1年(9) 内容の構成を考えて伝えることができる。根拠を明確にして構成を考え伝えることができる。

④タガログ語（フィリピン）を母語とする班

H・段階4・2年(3) 内容を関連付け構成を考え伝えることができる。構成や根拠を考え論理的に伝えることができる。

I・段階3・1年(3) まとまりある内容で考えを伝えることができる。根拠を明確にして伝えることができる。

J・段階3・1年(10) 内容を整理しまとまりある内容を伝えることができる。根拠を明確にして伝えることができる。

⑤ポルトガル語（ブラジル）を母語とする班

K・段階2・1年(1) 文型を使い複数文で伝えることができる。自分の考えを文字で伝えることができる。

L・段階2・1年(2) 文型を使い複数文で伝えることができる。自分の考えを文字で伝えることができる。

2. 課題追究① (精読：知識及び技能)

<p>1. パシュトゥ語(アフガニスタン)班</p> <p>A 面積・人口等の特徴を調べる B 国旗の色・意味を丁寧に読む</p> <p>支援 要点を押さえてまとめる、 まとまりある内容で説明する</p>	<p>2. ベンガル語(バングラデシュ)班</p> <p>C 複数文で名所や食物を説明 D 名所等をまとまりある内容で</p> <p>支援 まとまりある内容にする、 全体の構成を考える</p>	<p>3. ウルドゥ語(パキスタン)班</p> <p>E 全体のバランスを考えまとめる F 挨拶文型を分かりやすくまとめる G 言語・観光等を簡潔にまとめる</p> <p>支援 正確で説得力をもつ、 内容を比較し効果的に構成、 数字等で具体的に</p>
<p>4. タガログ語(フィリピン)班</p> <p>H 首都や気温等を様々にまとめ I 「シニガン」等の食べ物を伝える J 服装文化について多くの文で</p> <p>支援 各内容を関連付ける、 考えと根拠を明確に、 内容を整理してまとめる</p>	 <p>【 ポスター一例 1 】</p>	<p>5. ポルトガル語(ブラジル)班</p> <p>K ポルトガル語で作文し日本語訳 L 「青い」等の学習した単語を使う</p> <p>支援 文と文を関連付けてつなぐ、 「～は～です」等の文型を使う</p>

2. 課題追究② (多読：思考・判断・表現)

パシュトゥ語(アフガニスタン)班

- A 面積・人口等の要点まとめ、経験
- B 国旗の色・意味をまとめ説明

支援 ポスターを作る・発表する際、
構成・根拠をより明確に

2. ベンガル語(バングラデシュ)班

- C 家族と住んでいた町を複数文で
- D 主題(郷土愛)を基に全体構成

支援 複数文をまとまりある内容に、
発表順序等の全体の構成を

3. ウルドゥ語(パキスタン)班

- E 正確なデータを基に説得力
 - F 各国の挨拶を比較し効果的構成
 - G 言語・観光等を数字で具体的
- 支援 正確で説得力ある内容に、
効果的な構成を工夫、
根拠をより明確に

4. タガログ語(フィリピン)班

- H 内容を関連付け分類して構成
- I 食べ物への考えと根拠を明確に
- J 日本文化と比較する等内容整理

支援 全体の構成を考える、
考えと根拠をより明確に、
まとまりある内容に整理



【 ポスター一例 2 】

5. ポルトガル語(ブラジル)班

- K ワールドカップ等を複数文で
- L 「パステル」等食べ物を複数文で

支援 短い文を複数つなげて詳しく、
ポルトガル語を日本語で表現

3. まとめ（振り返る・つなぐ）

- ・**外国語母語生徒と日本語母語生徒が共に学びを深め合う**
 - ・生徒会役員（外国語母語 1 名・日本語母語 3 名）をゲストに交流
 - ・全校生徒が閲覧できる「国際理解コーナー」にポスター掲示・交流促進



【 国際理解コーナーで交流促進 】

学び方・居場所・母文化を「つなぐ」 成果と課題

成果

- ・学び方を「つなぐ」工夫：一人一人が系統的に学力を向上
- ・居場所を「つなぐ」工夫：組織的に生活適応を支援
- ・母文化を「つなぐ」工夫：外国人と日本人が認め合い・磨き合う

課題

- ・初期指導や中・後期指導、教科指導の具体化・共有化
- ・個性を伸ばし合う効果的な場づくりの工夫
- ・外国人も日本人も、すべての児童生徒が夢・希望に向かって挑戦できる日本語教育の改善・充実

「つなぐ」役割と「夢・希望」の力 改善案

- ①学校の授業づくり・放課後（日本語・各教科等補充）
 - ・日本語ステップと個別の指導計画の活用・支援助手協働等
 - ・学び方、居場所、母文化を「つなぐ」工夫
- ②地域との連携（教委、研究所、センター、社会、NPO）
- ③家庭との連携（PTA、地区懇談会、和菓子講座）等
- ④入口の指導（初期対応校と連携・「はじめの8歩」）
- ⑤出口の指導（進路選択・決定への支援）
 - 進路ガイダンス・5者面談・NPO連携（個別相談会）・
 - NPO土曜勉強塾

学校（平日） } 家庭・NPO・
地域（土日） } ボランティア